

YNU研究拠点 中間報告

21世紀のコミュニティ・ハブ研究拠点

## 都市のコモンズとしての、コミュニティ・ハブの研究

研究グループメンバー

大西麻貴 （横浜国立大学大学院Y-GSA教授）

寺田真理子（横浜国立大学大学院Y-GSA准教授）

アンドレア・ボッコ （トリノ工科大学教授）

マルティナ・ボッチ （元トリノ工科大学ポスドク研究員）

## 研究の目的・意義

人口減少社会において、行政のつくる公共施設のみならず、住民が自治的に立ち上げるローカルな居場所がコミュニティ・ハブとして重要な役割を果たす必要があると考えられる。本研究拠点は、インクルーシブな場所づくりに先進的なイタリアを中心に世界各地のコミュニティ・ハブのあり方を研究するとともに、それを能登半島地震の被災地において、実践として展開することを目的とする。

### 研究：

イタリア・日本をはじめ、世界のコミュニティ・ハブのサーチ



### 実践：

能登半島地震において被害を受けた集落でのコミュニティ・ハブの立ち上げ

## 研究と実践の往復運動

## 東日本大震災および熊本地震後に生まれたコミュニティの場「みんなの家」



東松島グリーンタウン矢本の仮設住宅の様子（2011）。コミュニティの核となる居場所が求められた。



## 多様な人々を受け入れる自治的公共空間「地区の家」の実践（トリノ）



トリノのヴィア・バルテア「地区の家」。半屋外の中庭が中間領域となり、人々を招き入れやすくしている



## 多様な人々を受け入れる自治的公共空間「地区の家」の実践（トリノ）



リーズナブルに栄養たっぷりのご飯を食べられる「地区の家」の食堂。毎日多様な人々が集まる

’94年に「地区の家」の前身「地区改善事務所」を立ち上げたアンドレア・ボッコ氏



都市のコモンズとしての、コミュニティ・ハブの研究

||

「ともに生きる社会」を「場」から考える営み

## 21世紀のコミュニティハブとは

1. open to all citizens 全ての市民に開かれている
2. active participation 能動的な参加
3. accessible, welcoming and generative アクセスしやすく、あたたかく、生成的
4. no single users of any place 一人ではなく、誰かとともに利用する場
5. diverse project 多様なプロジェクトが展開する
6. operators as “competent social artisans” 「ソーシャルな職人」としての運営者
7. intermediate between public and private 公と民との間をつなぐ
8. some economic autonomy ある程度の経済的自立性
9. rootedness in the territory その土地に根ざしていること
10. own form of governance 独自の自治のルールを持っている



## イタリアでの先行事例視察（2025年5月）

イタリアのトリノ、ジェノヴァ、ボローニャをY-GSA学生8名とともに訪問。トリノ工科大学アンドレア・ボッコ教授、現地在住の批評家多木陽介氏とともに、コミュニティ・ハブの先行事例として、複数の地区の家、ラボラトリオ・ザンザーラ（障害者就労支援）、サラボルサ図書館等を訪れ、運営者へのインタビューや空間リサーチを行った。



アンドレア・ボッコ教授による、トリノ都市史のレクチャー



ヴィア・バルテアの地区の家(トリノ)にて運営者にインタビュー

## 能登半島地震の復興支援活動（2024年2月～）

2024年度は、富山大学萩野紀一郎教授の協力の下、輪島市を中心に能登に通いながら、倒壊家屋からの古材レスキューや、倒壊した醤油蔵の再生などを通して、地域との関係づくりを進めた。  
2025年度は、輪島市その他、珠洲市の仮設住宅を訪問しヒアリングしつつ、より具体的な地域のニーズを拾い上げながら、実際のコミュニティ・ハブづくりへとつなげていこうと考えている。



富山大学萩野教授の指導のもと、倒壊家屋から古材をレスキュー



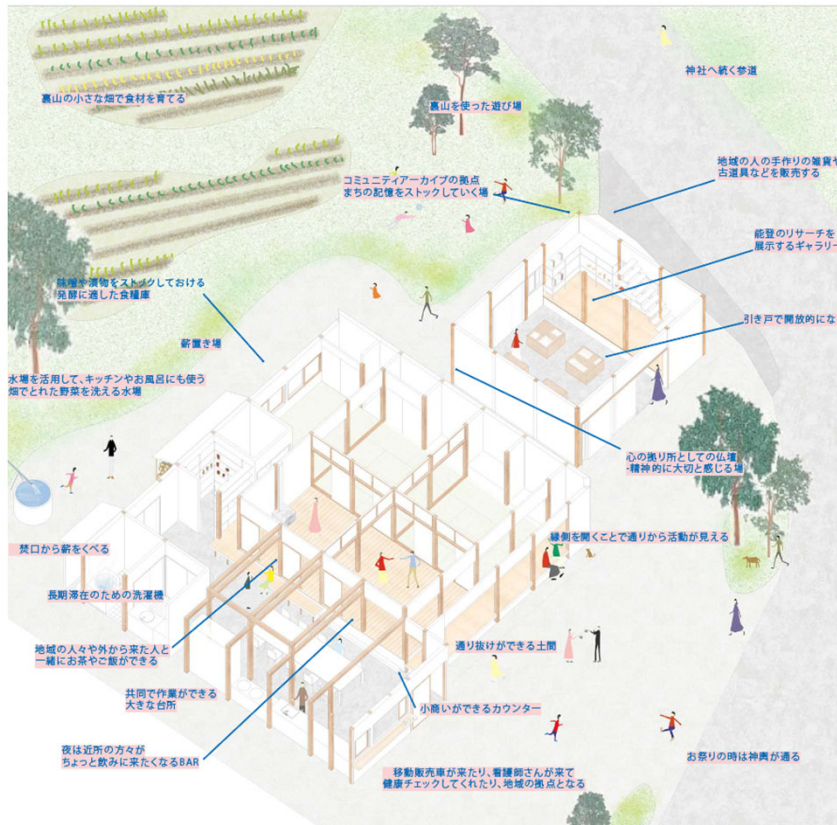
輪島市三井の集落の皆様にご挨拶および集落についてのヒアリング



# 能登半島における21世紀のコミュニティ・ハブの実践に向けて

## 実践1：空家・引持邸（輪島市三井）の改修計画

輪島市三井の空家を地域に開かれた滞在拠点とすべく、実測、提案づくり、地域への発表、および清掃を進めている。



Y-GSA学生とともに改修案を設計



地域の方々への提案と引持邸の清掃



## 能登半島における 21 世紀のコミュニティ・ハブの実践に向けて

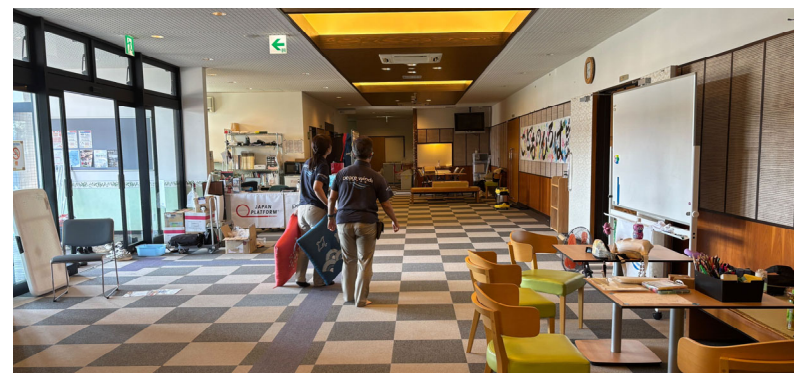
実践 2：親子の活動・交流の拠点づくり（珠洲市）

**2025年12月仮オープン予定**

NGO団体「ピースウィンズジャパン」と珠洲市協力の下、元葬祭場を親子の活動・交流の拠点として改修する計画を進めている。



Y-GSA学生とともに遊び場とライブラリを設計



改修対象となる葬祭場と、遊び場エリアのイメージ

## 今後の展望

- ・イタリアおよび日本でのコミュニティ・ハブリサーチの学びを、実践的な本としてまとめる予定。  
(アンドレア・ボッコ氏、多木陽介氏、大西麻貴の共著。)
- ・研究で得られた知見を、他地域でも実践可能とするために、いくつかのケーススタディを書籍内で展開する。
- ・能登半島での21世紀のコミュニティ・ハブ実践の具体化を進める。ハードはもちろん、活動や運営方法についても、運営メンバーとともに議論し、どうすれば持続可能な場所として展開可能か、引き続き検討していく。



書籍の発行はアンドレアボッコ氏・多木氏  
による本を出版経験のある鹿島出版会を予定